

挑戦 ～翔ける思い～

理念追求型企業を目指し

経営理念こそが良いビジョンと良い目標を生み出す



中村社長

良い目標と

良いビジョン

1月29日(火)に、日本創造教育研究所(石川経営研究会)主催のセミナーに会社全体として参加いたしました。

私自身、これまでも色々な講演会や勉強会に参加して参りましたが、今回のセミナーは「良い目標・良いビジョン」の必要性を改めて感じさせていただくセミナーでした。

ここで言う「良い目標・良いビジョン」とは私自身も含めた全員が共感できるものであるということです。

そして、「良い目標・良いビジョン」を生みだすための源泉となるのが、理念ということになります。

共感と理解

理念には、事業を通して「やりたいことやなりたい状況」を実現するための、色々な思いが込められています。ただ、この思いを単なる思いに留めていては、なんの意味もありません。経営理念と呼べるまで昇華させていく必要があります。

また、経営理念を掲げるだけであれば誰にでもできますが、「会社のため、社員の皆さんのための経営理念」を掲げることが容易なことではありません。

当然のことながら、私達は各個人の範疇での取り組みではなく、企業として活動をしていきます。実際に、色々な考え方を持った人間が集まって活動をしていきますので、意見や考え方の違いも出てきます。

そうした中で、経営理念は会社としての方向性を示し、社員に共通理解を図っていただく大事なものです。

そのため、社員の皆さんから「共感・理解」を得られるような経営理念を掲げていかなければなりませんし、一方で、社員

の皆さんにも経営理念への理解を深めていただく必要があります。

経営理念への思い

現在掲げられている経営理念には、私自身の色々な思いが込められています。

この理念をしっかりと理解することができれば、お客様からのクレームは減少し、「顧客満足」という方向へと進んでいくはずで

す。挨拶から接客、品質管理、目標達成への意欲も含め、様々な行動に変化が生じてきます。

取り組みを実施しても、意味がないと感じるようであれば、本当の意味で経営理念を理解した状態とはいえません。経営理念を理解して仕事に取り組めば、大小の違いはあれ、日々ながらの変化が身の回りですべて起こっているはずなのです。

私自身もそのことに気がついてから、色々なことに興味・関心が湧き、時間を惜しんで勉強をするようになりました。そして「自分の仕事とは会社全体の方向性を考えることである」という認識に変化してきたのです。もちろん、経営理念に込められた思いを実現させることは容

易なことではありません。ただ、苦労を重ねていくことで人として大きく成長することができ

ます。また、経営理念に込められた思いを理解していれば、たとえ困難な状況に陥った時でも、何のために活動を行っているのかを振り返る「ものさし」にもなります。

そして、振り返りを行なうことで新たに「頑張ろう」という気持ちになることができます。

可能性を信じて

自社が目指しているのは、お客様はもちろん、私達をとりまく地域全体に感動を与えられる会社になることです。

そのためには、1人ひとりが可能性を信じ、理念の実現に向けて活動に取り組んでいく必要があります。

また、経営理念への理解を深め、各人の考えや思いのベクトルを同じ方向へと向かわすことができれば、目標へ近づくスピードは、早まるのではないかと思います。

「顧客満足から顧客感動へ」この思いを胸に、会社の更なる発展、そして地域の活性化を目指し頑張っていきたいと思います。